

1183.24

陸・海・空自衛隊による統合演習（10～20日）で、九州と中国地方の四つの民間空港を使って戦闘機の離着陸訓練が実施・計画されています。四国の中島が攻撃によって使用できないとなるという想定です。自衛隊の戦闘機が有事を愈頭に置いて民間空港で離着陸訓練をするのは、民間共用空港を除き初めてとなります。戦時に軍事利用される空港・滑走路が相手国の攻撃の標的となる危険は明白です。

民間空港軍事利用

主張

限發揮する」ため「民間の空港、港湾施設等の利用拡大を図る」としたのを具体化したものです。大分空港での訓練は、奈良県橿原基地（橿原市）からF-2戦闘機が出击したもので、その後、同基地の滑走路が使えないなどのことで、定期で行われました。橿原基地の代

練しました。那是
の一環として、
傷した滑走路
われました。

帝國陸軍も同様の想
図基地では、統合演習
地元自治体と連携を始めていた
れであります。民間組織では、社團
の野球部、新井市加古川町の
で競走路の延長が計画されてい
じつです。(東京「10月」)

に圖いたがる」へ變じられて「那
す〔朝日〕14日付)。しかも「自
國有事」では、日本への武力攻撃
は発生していません。

加えて、豊大なのは、安保の文書が民間空港・運航会社の利用拡大に向けられ、空港隊がより使い始めたと安保の文書は、「有事の際に民間空港・運航会社の利用拡大の対応も見据えた空港・港湾の平素からの利活用に関するルール作り」を行うとしている。

になる危険は明白です。
従来、自衛隊が民
間空港・港湾を使用

わりに大分空港に着陸し、給油も整備も実施されました。岡山空港でも同種の訓練が行われました。

攻撃の標的になる危険は明白